

## 【レポート④】

落谷 雄輝

池袋駅近くに位置する雑司が谷は伝統的な文化や自然を残した地域で、住民が積極的に街づくりに取り組んでいます。二〇一四年に日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録された「雑司が谷がやがプロジェクト」歴史と文化のまちづくり」もそうした取り組みのひとつです。また、二〇一六年には鬼子母神堂が国の重要文化財に指定されました。

近年ますます注目を集めている雑司が谷について考えるため、二〇一六年度「池袋学」夏季特別講座として「雑司が谷で『つながる』・『つなぐ』」―ESDをキーワードとする地域づくりと人づくりへ―が開催されました。かつて雑司が谷は、現在の西池袋や南池袋をも包摂する広い範囲を指していました。これまでも「池袋学」では「池袋」を広く捉えてきましたが、雑司が谷を

取り上げることは、池袋駅を境に東西に分かれた地域を「つなぐ」ことを意図しています。

本講座は、講演会、シンポジウム、参加型プログラムの全三部の構成で展開されました。本レポートでは、第一部の講演会「雑司が谷とは何か」について報告します。立教大学名誉教授で自由学園最高学部長の渡辺憲司先生、法明寺住職の近江正典上人、日本ユネスコ協会連盟事務局長の川上千春氏の三人に、それぞれの視点から雑司が谷についてお話しいただきました。

渡辺先生には、雑司が谷の地域的特色や池袋と雑司が谷の関係についてご講演いただきました。「池袋の女」という江戸時代の民話をご存じでしょうか。池袋出身の女性と密通すると、その男の家の屋根や雨戸に石が降ってくるといった怪奇現象が起きたため、女性に暇を与えたところ、治まったという話です。さらに、狂言作者の鶴屋南北の作品『東海道四谷怪談』が雑司が谷四谷町を舞台としていることもあり、池袋や

雑司が谷は、民俗学的に負のイメージがつきまといっていました。しかし、渡辺先生は、東洋大学の創設者である井上円了の説を紹介して、怪異的な「池袋の女」のイメージを払拭し、自立的な女性像として捉え直すとうとします。

妖怪研究の大家でもあった井上円了は「池袋の女」における怪奇現象を、女性が自立を求める際の抗議行動と解釈しています。渡辺先生によれば、当時、江戸の周辺地域には自立農層が多く、池袋近郊の農業の豊かさが自由な気風を醸成し、自立的な女性が生まれる基盤になったのではないかと指摘します。また、雑司が谷における鬼子母神を中心とする法華経の女性救済信仰も女性の自立を促進する一助を担っていました。そうした状況を背景として、近代になつてキリスト教の自由主義思想を迎えられる土壌に発展したと考えられています。

続いて、法明寺住職の近江正典上人から、鬼子母神信仰と雑司が谷の関係についてお話しいただきました。多神教国家である日

本には、他国の宗教を日本人の精神性に合致するように変化させる側面があります。仏教がいわば「日本化」されていく中で生まれたのが、法華経における女性救済信仰です。鬼子母神は安産・子育て（こやす）の神として平安時代から広く信仰されていましたが、子どもの死亡率が高かった江戸時代に盛んになりました。

日蓮聖人が鬼子母神を重視したことから、法華経信者や日蓮宗徒にとつて鬼子母神は特別な存在となりました。女性の信仰者も多くいましたが、代表的な女性が、鬼子母神堂を寄進した自昌院です。鬼子母神信仰は、雑司が谷から徐々に江戸市中に広がりました。日蓮宗の御会式では日蓮宗の寺院を参拝するのが一般的ですが、雑司が谷の場合は鬼子母神堂に参詣するそうです。こうした御会式のあり方にも、鬼子母神信仰と雑司が谷の深いつながりがよく現れています。

最後に、川上千春氏から、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に関

するお話がありました。日本ユネスコ協会連盟では、主に青少年に対する国際理解教育や、途上国や被災地における教育支援、世界遺産や地域遺産を守り伝える活動を行っています。地域の重視すべき「宝」を共有していくと発足したのが「未来遺産運動」です。この運動は、長い歴史と伝統のもとで培われてきた地域の文化・自然遺産を百年後の子どもたちに伝えることを目的としています。

「プロジェクト未来遺産」とは「未来遺産運動」の中で、メッセージ性や持続可能性などを基準に選考され、2014年に「雑司ヶ谷がやがやプロジェクト」が選ばれました。川上氏は、全国の未来遺産運動の活動事例を紹介し、それらをヒントに地域の歴史・文化・自然を再発見することの重要性を指摘しました。そこでは、世代を超えた縦断的な連携や職業や立場を超えた横断的連携を目指すことが必要とされています。

そうした連携を豊島区や池袋で実現する際、雑司が谷で育まれてきた自由な風土を

活かすことができるのではないのでしょうか。また、雑司が谷や池袋の自由な土壌は女性の自立性を促進しました。法華経の女性救済信仰や安産・子育ての神である鬼子母神信仰と強く結びついた雑司が谷には、女性を引きつける街としての可能性があります。このことは「消滅可能性都市」に挙げられた豊島区にとって、極めて重要な展望だといえます。三者三様の視点から、過去、現在、そして未来の雑司が谷が見えた講演でした。

#### \*

なお、第二部・第三部は、文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）の一環として開催されました。第二部・第三部の成果は別途報告書を作成し、レポートも収録いたします。

（ふきや・ゆうき 文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程二年次）